

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムシガレイ

学名 *Eopsetta grigorjewi*

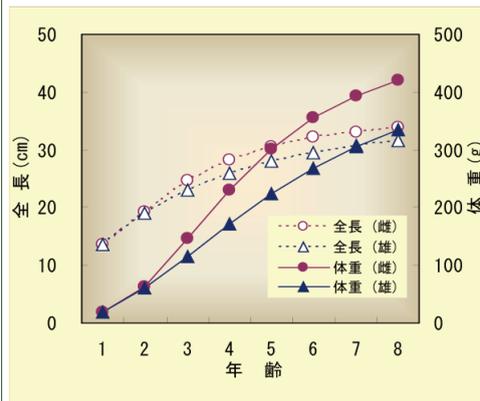
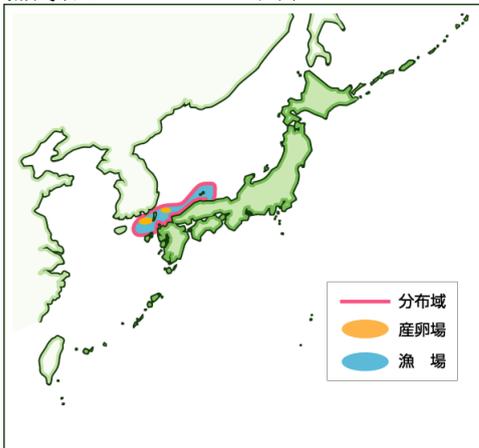
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳
 成熟開始年齢: 2歳(40%)、3歳(100%)
 産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域
 索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
 食性: 全長約12cmまでは小型甲殻類、12cm以上ではエビ・カニ類やイカ類、全長約18cmから魚類
 捕食者: 不明



漁業の特徴

日本海西部におけるムシガレイは、底びき網、刺し網、延縄等で漁獲される。漁獲量の大半は2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によるものである。我が国の2そうびき沖底のムシガレイ漁場は、対馬南西域から隠岐周辺に及ぶ。

漁獲の動向

漁獲量は1980年代前半に減少した後、増減を繰り返しながら低位で推移している。1998年には11百トンまで減少したが、2007年には15百トンの漁獲があった。近年の沖底の漁獲量は10百トン前後、小底の漁獲量は3百トン前後で推移している。韓国全域で2006年には200百トン、2007年には240百トンのカレイ類が漁獲されている。

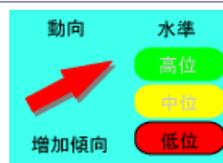


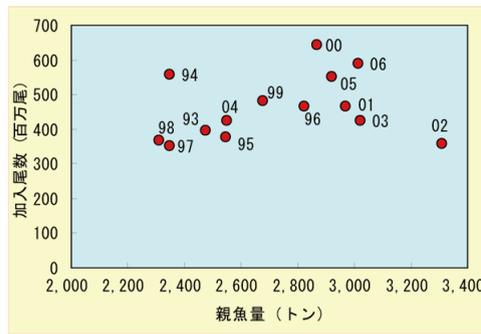
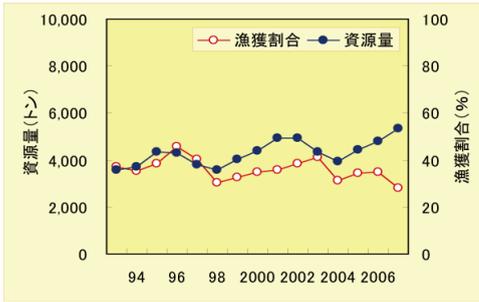
資源評価法

漁獲量、漁獲努力量等の情報を収集し、資源量指数と資源密度指数を算出するとともに、1993年以降について漁獲物の生物測定結果とあわせて年齢別の漁獲尾数による資源解析を行った。

資源状態

資源量指数は1979年以降、漁獲量は1985年以降、低い水準で推移している。資源密度指数は、資源量指数と同様1979年以降低下し、近年漸増傾向にあったが、2007年にはやや低下した。資源量、親魚量は1993年以降増減しながら同程度の水準を保っていたが、2004年以降やや増加傾向が見られる。



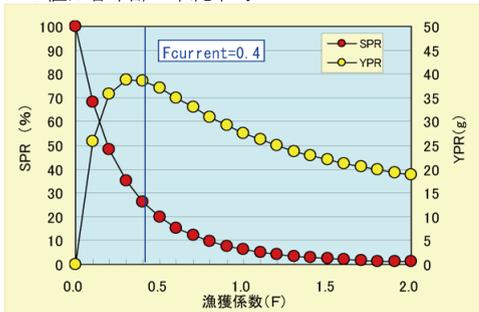


管理方策

2007年に漁獲圧が低下し、今後資源の増加が期待される。しかし、本種の資源水準は未だ低位であり、資源の回復を図るためには漁獲圧を2007年と同程度以下に留めることが望ましい。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,900トン	0.9Fcurrent	0.37	27%
ABCtarget	1,500トン	0.8・0.9Fcurrent	0.29	22%

- 漁獲割合はABC/資源量
- Fcurrentは2007年のF
- F値は各年齢の単純平均



資源評価のまとめ

- 資源は近年やや増加している
- 漁獲圧は同程度の水準で推移していたが、近年やや減少傾向が見られる
- 加入量は近年やや増加している

管理方策のまとめ

- 本種の資源量は回復しつつあるが資源水準は未だ低位であり、漁獲圧を2007年と同程度以下に留めることが望ましい

資源評価は毎年更新されます。